

## 平成 25 年度第 3 回島根県公共事業再評価委員会質疑応答

件 名	平成 25 年度 第 3 回島根県公共事業再評価委員会
日 時	平成 25 年 8 月 29 日 (木) 7 : 30 ~ 18 : 00
場 所	抽出地区 (益田市)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 委員 安部康二、岡清二、来海公子、宗村広昭、高田龍一、藤原真砂、藤山晶子、正岡さち、和田登志子 (敬称略)</li> <li>● 県 土木部 技術管理課長、河川課 GL、港湾空港課 GL 他</li> </ul>
審議	1. 抽出地区の現地調査 (益田市)

- (調査箇所)
- |   |          |                  |
|---|----------|------------------|
| 1 | 広域河川改修事業 | 今市川              |
| 2 | 港湾改修事業   | 益田港高津地区          |
| 3 | 県営林道開設事業 | 三子山線 (9月4日、藤山委員) |

### 質疑応答

#### ◆ 広域河川改修事業 今市川

(委員) 用地買収率は？

(県) 99%です

(委員) 河川の整備の進め方は？

(県) 下流から上流に向かって工事を行う

(委員) 益田市との境界は？護岸の構造 (景観) など市との協議は行っているか？

(県) 上流の橋のもうひとつ上の橋が境界、市は上流側である。また、景観や構造について市とは調整しながら進めている。

(委員) なぜ、一つの河川で県と市と別れるのか？

(県) 本川を県、支川を市が管理する事例が多い。今市川は下流を県、上流を市が管理している。もともと下流まで準用河川 (市管理) だったが、国道 9 号周辺より下流で開発が進んだことや災害などがあったため、県が管理している。

(委員) 県と市で管理が分ける基準を教えてください。

(県) 後日回答します。

(県) 先日 8 /23 の出水状況の写真を説明。護岸いっぱいまで流下している。下流の整備が完了しているため、このあたりの浸水がまぬがれたと考えている。

(委員) 益田市の工事着手は？

(県) H 2 7 年度から工事開始の予定である。

(委員) 景観の配慮は？

(県) 護岸は、史跡（船着場）の石積みにあわせて拡幅部も石積み護岸を計画している。

(委員) 船着き場は？

(県) 右岸は現状の形で残す。

(委員) 現船着き場の工事はいつ実施したのか・

(県) H 1 7 年度に暫定施工としている。

(委員) 対岸の護岸のパイプは？

(県) 民地の所有者の排水パイプである。

(委員) 河川の法線をなぜ急に曲げるのか？

(県) 船着き場を残すことから、下流の法線に接続するには、曲げざるを得ない。

(委員) 今市川の県の改修事業と市の改修事業とで計画の整合性はとれているか？後日整理して回答いただきたい。

(県) 後日回答します。

#### ◆ 港湾改修事業 益田港高津地区

(県説明) 当初は、島式港湾として計画していたが、北海道で砂浜がやせるなど問題があるので判明した。このため、H 1 1 年度に現在の計画に変更した。

昔は、この周辺は砂浜であり、この砂浜に係留していた。

(委員) ワイン型港湾はなぜ必要だった？

(県) 船の係留場所が不足しているため。

(委員) 船は減っているのではないか？

(県) 減少はしているが、それでも不足している状況である。

(委員) 漁業者は？

(県) 減少しているが、現在は、はまぐりなどに力を入れている。

(委員) 益田川にも係留している？

(県) 基本的に、漁協と調整しながら計画している。

(委員) 期成同盟会はあるか？

(県) ない。JFしまねから要望されている。

(委員) 今の施設を使えるのは、漁船？

(県) プレジャーボートもある。

(委員) 浚渫しているのか？

(県) 浚渫し、航路、泊地を管理している。(中州がなく、砂が流入してくる)

(委員) 完成は？

(県) H32完成の予定である。(防波堤の建設に時間と費用がかかっている)

(委員) 海岸事業も実施しているのか？

(県) 実施している。

(委員) 泊地の深さは？

(県) - 2 mである。

#### ◆ 県営林道開設事業 三子山線 (9月4日藤山委員現地調査)

(委員) 林道では一般車両の交通規制をしないのか？

(県) この林道では、不特定多数の利用を想定しているため交通規制は行っていない。

(委員) 利用区域内にある人家は何戸あるのか？

(県) 起点側の下左鏡集落に11戸ある。

(委員) 補強土壁工採用するとなぜコスト縮減となるのか？

(県) 残土処理には、多くの経費を要するが補強土壁工採用することで残土量を低く抑えることができる。

(委員) 法面緑化工に用いる植物の選定理由は？

(県) 土壌分がないところでも耐久性があること。なるべく在来種を採用すること。早期に全面緑化できるものであること等を勘案し選定している。

(委員) 三子山は、登山者の利用がある。登山道と林道の交差する地点はどこか？

(県) 今後実施予定区間で交差することになる。

(委員) 完成予定年度に完了できるか？

(県) 現在の予算規模で計画的に実施すれば、完成予定年度の平成31年度には完成する。